

診断京都

一般社団法人 京都府中小企業診断協会

No.118
2017年 夏号



第6期のスタートにあたって

～ Change (変化) Challenge (挑戦) Contribution (貢献) ～

京都府中小企業診断協会（京都協会）は一般社団法人となって丸5年が過ぎました。この間、「変化（Change）」「挑戦（Challenge）」「貢献（Contribution）」の「3C」の下、微力ではありますが診断士力の向上と、会員増強、行政・支援機関等との連携、民需開拓等により組織と財務基盤の強化を図り、以て診断士の認知度・社会的地位の向上、京都協会の成長発展、京都府内中小企業等の成長発展と社会貢献に取り組んで参りました。その結果、京都協会の会員数、事業規模は着実に拡大して参りました。また、法人化とともに始めた社会貢献積立（経常利益の1%）も毎年、着実に実行しており、平成28年度は6万円弱を積み立てました。これら5年間の成果は、会員諸氏並びに行政、支援機関等による京都協会の事業活動へのご協力、ご高配の賜物と、厚く御礼申し上げます。



ところで、昨今、中小企業・小規模事業者の経営力向上計画の作成や、持続的発展、事業承継、販路開拓、経営改善計画の作成等々の支援に対して、中小企業診断士への期待が従来にも増して高まっています。その期待に応えるため、平成29年度も既存の会員向け諸事業や、行政・支援機関等と連携した各種事業等を着実に推進するとともに、新たな事業にも取り組んで参ります。以下に新規事業を中心に、平成29年度の主な事業を示します。

◆広報事業部

- ・シンポジウムの開催
- ・診断京都の発行や新たなパンフレットの作成・配布
- ・連合会本部の診断ニュースや同別冊（実務補習受講者等に配布）への寄稿

◆会員事業部

- ・事業承継研究会や企業内診断士対象の「さんもく会」などの各種研究会の開催
- ・厚生事業（洛中洛外散策や金融機関、支援機関等との共催ソフトボール大会）の開催
- ・スキルアップ研修（連合会本部との連携）の開催

◆対外事業部

- ・行政、各支援機関等との既存連携事業の推進
- ・京都信用保証協会様とのプロアップサポート（経営力向上計画作成支援）事業の推進
- ・日本政策金融公庫京都支店様との共催セミナー（経営力向上セミナー）の開催

◆新商品開発事業部

- ・京都プロコンカレッジや創業セミナー等の開催
- ・近畿ブロックにおける診断士の日のイベントの合同開催の実施
- ・龍谷大学との地域人材育成に関する連携

さて、平成28年度を振り返りますと、連合会本部と連携した新しいバッジの作成や診断士の日の制定をとおして、診断士や中小企業診断制度のPR活動を展開致しました。新しいバッジは、お会いする多くの方々から「すてきなバッジですね」とのお声をいただきました。また、診断士の日のイベントとして開催した恒例の秋のシンポジウムも好評を博しました。加えて、四条烏丸で（仮称）京都経済センターの建設が本格化する中、京都協会の事務所を京都市サーチパークから四条烏丸近辺に移すなど、明日の京都協会作りに向けて、言わば外見を整えてきました。今後は、中身を充実させていく必要があります。平成29年度はそのスタートの年度になります。

「3C」の下、地に足をつけて諸活動を推進し、診断士の資質の向上、京都府内中小企業等の発展支援等に取り組んで参ります。みなさまの変わらぬご協力、ご高配をお願いする次第です。
(山脇 康彦)

京の起業家

京の起業家①⑥ 二条城ふる田

京都商工会議所よりご紹介いただき、平成28年4月に開業された日本料理店「二条城 ふる田」代表の古田幸平さんにお話を伺いました。

●創業までの経緯を教えてください。

子どもの頃から料理が好きで、家族のために料理を作って喜んでもらえるのが嬉しく、料理人になりたいと思うようになりました。料理学校に進んだ当初はフランス料理の道を目指していたのですが、実習で出汁の美味しさに感動し、素材を活かしたシンプルな和食の調理方法に魅力を感じ、和食の道に進むことを決めました。卒業後、ご縁があつていくつかの料理店に勤務する中で、繁盛店の料理人は腕だけでなく、お客様とのお付き合いや先輩・後輩との関係、人柄も大変重要なことだと学びました。20歳の頃から自分のお店を持ちたいとは思ってはいましたが、具体的に考え始めたのは30歳を過ぎてからです。開業前には、商工会議所の創業塾で出会った仲間から紹介を受けた京都中央卸売市場の鮮魚店や和食店でさらに経験を積み、開業資金を貯めながら情報収集をしました。当時はハードワークで本当に大変でしたが、お店を持つための技術だけでなく、様々な経験や人との関わりを得ることができました。やはり「人」が人生で一番大事だと改めて感じています。

●創業塾を受けられたということですが、商工会議所からはどんな支援を受けましたか？

商工会議所の支援を受け開業した先輩から、支援員の山本さんを紹介していただき、タイミングよく創業塾がスタートする時期で、受講することを薦めてくださいました。創業塾では、お金の管理の話や経営について学び、これまで馴染みのない言葉も多く難しい内容もありましたが、そこで出会った創業仲間は、今もお互い刺激を受ける貴重な存在となりました。

創業塾終了後は、鮮魚店と和食店で働きながら、妻と一緒に商工会議所の山本さんと面談を重ね、事業計画を具体化していきました。事業計画をまとめることができたのは、パソコン入力や文章作りを手伝ってくれた妻のおかげです。開店目前には中小企業診断士の先生の支援を受け、改めて店のコンセプトを再確認し、自信を持って店舗オープンを迎えることができました。

●お店のこだわりなどを教えてください。

アットホームで愛されるお店をつくりたいということは最初から変わらない思いです。

焼き物がメイン料理のため、お客様から見えるカウ



ンター内に焼き場をつくり、季節の食材を炭で焼いたものを出しています。パチパチという素材を炙る音や食欲を刺激する香りなど、調理のライブ感も楽しんでいただいています。小さなお店だからこそ、お客様の五感すべてが満足できるおもてなしを心がけています。そのため、完全予約制の営業で、回転を上げすぎて料理の質を落とすことのないように心がけています。

●1年たっていかがでしたか？今後に向けての課題は？

1年目は順調だったと思います。美味しくてお得感もあるという口コミを頂いています。何度も通ってくださっているお客様もいます。若い従業員も一人雇用することができました。「美味しい」というのは当然なので、和菓子職人である妻の和菓子を取り入れるなど、おもてなしや料理に創意工夫を加えて、料理のクオリティをもっと上げ、さらに居心地いいお店をつくってみたいです。

現状、特に宣伝はしていません。烏丸御池から二条城までの導線に立地し、意外と人通りが多いので、店前にショップカードを置いていますが、それ以外は口コミとfacebookだけです。今後は、近隣のホテルへ営業したいと思っていますが、何年も先まで予約が取れないような店は目指していません。今の座席数で、家族との時間も大切に、従業員と研修旅行もできるよう、自分自身のできる範囲、目の届く範囲でしっかりと店を守っていきます。



【京都商工会議所 経営支援員 山本智志氏よりひとこと】

創業相談を開始した時から創りたいお店のイメージをしっかりと持たれており、立地やお客様のターゲットを明確にした上で開業されました。東京や名古屋から来られるお客様も多く、料理はもちろん、古田さんの人柄に魅力を感じ喜ばれているのだと思います。落ち着いた雰囲気の中で本格的な日本料理が楽しめるお店として、これからも頑張ってください。

【店舗情報】

二条城 ふる田
京都市中京区 押小路通小川西入ル古城町371
Tel. (075) 254-8377
営業時間：17:00～20:30（最終入店時間）
夜：おまかせコース 13,000円（税サ別）
昼：ご相談

（取材 阪本 純子）

《イノベーション・キュレーターへの道 ②》

はじめまして。イノベーション・キュレーター塾の塾長を務めております株式会社福市の代表の高津玉枝と申します。今回は、イノベーション・キュレーター塾についてご案内させていただきます。



皆様は、中小企業診断士として、企業の診断やアドバイスなど、各方面でご活躍されていることと思います。その結果、企業が成長し成功を収められた経験をたくさんお持ちだと思います。しかし、昨今の時代の変化によって、従来の手法やノウハウだと成果につながらない、ただ単に売り上げを上げることが企業にとって本当に幸せなのだろうか、疑問や戸惑いを感じたことはないでしょうか。

私は以前、マーケティングの会社を経営しておりました。多くのクライアントに恵まれ、心の底から喜んでいただけた仕事も経験しました。しかし、デフレに伴い、「価値」の大半が「安さだけを求めること」に変化し、自らの仕事を推進することが、本当に世の中のためになっているのだろうか、誰かを犠牲にしているのではないかと、短期的には企業の利益に貢献できるがそれだけでよいのかと、何とも言えぬ不安に襲われ、立ち止まってしまいました。そんなタイミングで、途上国支援につながるお買い物「フェアトレード」という概念に出会い、「安さ」ではない「新たな価値」を創造しようと決意。仕事をシフトし、2006年に新会社を設立、現在フェアトレードの事業に取り組んでおります。

環境問題・気候変動・貧困・紛争・格差など近年社会的な課題が顕在化しています。解決するためにさまざまな取り組みがなされていますが、その量と質は増え続けるばかりです。同時に、大量生産・大量消費の経済システムが終焉を迎えていることは、すでにお気づきのことだと思います。これからの時代、企業に必要なことは、目の前の利益だけを追い求めるだけではなく、企業の本業が社会的な課題を解決する、あるいは社会的な課題を生まない価値を創造することではないかと私たちは考えています。そこで、2015年京都市イノベーションクラスター構想を元に、社会課題を解決する・課題を生まない社会を目指す視座を持ち、従来のビジネスや組織を目指す未来に向けて加速させる人材を育成するために「イノベーション・キュレーター塾」が誕生しました。

情報を拾い上げ、新たな価値を付加して共有

する力と社会的課題を俯瞰し、その本質を掴む力を持ち、経営者に伴走する人材をイノベーション・キュレーターと呼んでいます。前期では、多様なゲストをお招きします。ソーシャルイノベーション研究の第一人者でもあるSILKの大室所長に始まり、グローバルな課題を読み解くヒントをCSR業界でご活躍の大和総研の河口氏、社会的な課題を本業に取り組んでおられるソーシャルイノベーターたち。お話を伺うだけではなく、双方向のコミュニケーションを大切に、ゲストと私とのセッション、塾生との議論などを少人数で行います。後期では、マイプロジェクトを作ってもらい、実践してもらいます。自ら取り組むことで、本質は何か、どこに課題があるのか、イノベーションを起こしていくための経験値を積み上げてもらいます。

現在、塾では、自ら経営している事業者、経営戦略室などで活躍している社内イノベーター、そして中小企業診断士、弁護士・銀行マン等の伴走者、さまざまな業界の方が学んでいます。年齢や立場を超えてフラットな関係で、プロジェクト達成に向けて喧々諤々毎回熱い議論が行われています。「大切な行動指針を得ることができた」「物事のとらえ方が変化し、よい結果が出ています」「生涯大切にしたい仲間ができた」等、塾生たちは卒塾後、自らの事業や社内外で行動を起こし、身に着けた学びを376社、651人に提供、社会にインパクトを与え始めています。



イノベーション・キュレーター塾の第三期の募集が先日スタートしました。もし、ご自身の仕事に小さな疑問や戸惑いがあれば、自分が目指す未来を見つめ、共に学び、イノベーション・キュレーターとして、自らのビジネススキルを活用して、社会をよりよい未来にするために行動しませんか。多くの仲間が待っています。

(京都市ソーシャルイノベーション研究所 イノベーション・キュレーター塾 塾長 高津玉枝)

7月7日(金)にキュレーター塾説明会を予定しております。

【キュレーター塾の募集詳細と、7月7日実施の説明会の詳しい情報はこちらから】

<https://social-innovation.kyoto.jp/learning/1489>



もう6年程前、ちょうど私がサラリーマンを辞めて飲食店を開業しようと考えていた頃に自分の夢を100個書き出すという「私の夢リスト100」というものを書いたことがあります。その中の一つに「セミナー講師になる」というのがあります。当時私はあちこちのセミナーに参加しており、そこで話される先生に憧れていました。

その夢が叶ったのは、「接客マナー」について話しをしてくれないかというご依頼でした。もちろん「喜んで!」とお答えし、すぐ実現しました。「私の夢リスト100」は、自分で書き出すことで本当に叶うものです。是非オススメします。

さて、私が憧れていたセミナー講師というお仕事は、お陰さまで診断士になってからもただけのようになりました。年間100回や200回などされている先生には全く及びませんが、私がセミナー講師で心掛けていることを三つ、今回はお話ししたいと思います。

一つ目、「とにかくわかりやすく」です。

もちろん対象のお客様にもよりますが、できるだけ誰もがわかる言葉を使うように心掛けています。話す言葉や資料の表現など、難しい言葉、特に横文字やカタカナ用語、専門用語は使わないようにしています。例えば「ビジョン」という言葉。私はあえて「将来像」や「あるべき姿」などの日本語を使います。「ビジョン」と聞いて、ほとんどの方がその意味をご存じだとは思いますが、わかりやすい日本語を使うことで、全員にわかっていただけるようにしています。また、1枚1枚のスライドにも気を遣っています。見てスッと読み取れるように大きめの文字や図表を使います。

そして、話すスピード。私はどうしても早口になりがちですので、意識してゆっくりと話すように、また、大事なところはあえて二度繰り返したりもします。

これらは、私がセミナーの受講者側として参加した際に、「わからない言葉」を聞いたときや、資料を見て「わかりにくい」ときは、「全体でもわかりにくい」気がするのです。セミナーや講義は、「わかる」ことが大前提だと思うのです。ですので、ごくごく当たり前のこと



を丁寧に書きすぎたり話しすぎたりしているときもあります。逆に「物足りない」と思われる方もおられます。参加者のアンケートなどを後で見させていただいても、「物足りない」というご意見が必ずあります。ですが、いつも少数です。

二つ目、「手元の配布資料は見ないでください」とお願いしています。

理由は、手元の資料を見ながら（下を向いて）ではなく、私やスライドを（前を）見ていただきながら聞いていただきたいからです。配布資料はセミナーの後に持ち帰って“おさらい”に見直していただくようお願いしています。理由は、参加者の方々の眼を見て話すことで、その反応を見ながら臨機応変にお話しができることです。また、多くの参加者の方々と対話している感じが得られるからです。ですので、配布資料は閉じたままで、メモなどを取るとき以外は、こちらを見て聞いてくださいとお願いしています。

三つ目、事前に「一人リハーサル」をします。

まだまだ私はセミナー講師の実績も少なく、緊張することもあります。それらを防ぐために2時間のセミナーならば本番を想定して2時間でリハーサルをします。今は、誰もいない自宅で一人リハーサルをしていますが、以前に勤めていたデザイン会社では、同僚に聞いてもらってダメ出しをしてもらっていました。ちょっとしたニュアンス、表現、口調など、特に初めてのテーマでは、録音を行い、自分の話し方をチェックしています。これはとても効果があります。そもそも自分の話し方を客観的に聞いたことがある方は、少ないのではないのでしょうか？

これはセミナー講師に限ってではなく、自分の喋りを自分が客観的に聞くことで、自分の癖や間合いなど、多くの気づきが得られます。これも是非オススメします。

上記のように私が普段心掛けていることを三つあげましたが、今までの経験の中でもっとうまくできないか、もっと満足していただけないかなど、いろいろ考えて今の三つの心掛けをしています。もちろん、これで終わりではなく、まだまだ改善していく必要があります。セミナー講師に限らず、ご支援を通じて「お客様の期待を超える」ことを更に追求し続けたいと思います。

（湯川 俊彦）

どなたでも参加出来る！「経営革新支援研究会」のご案内

経営革新支援研究会の世話役の賀長です。京都協会の会員の学びの場として、また、京都協会に興味をいただいた中小企業診断士と会員の交流の場として、第2水曜日の19時より20時まで、年間10回の開催を目標に研究会を行っています。昨年通算回数が300回に達し、最も歴史のある研究会として、私も歴代の研究会の世話役の方々に激励されるたびに、期待に応えるべく身が引き締まる思いです。



研究会の様様 (2016年9月14日 講師：京都商工会議所 西岡誠司様)

研究会は、外部講師と会員講師を開催月ごとに交互に登壇していただくかたちで運営しています。

研究会は、外部講師と会員講師を開催月ごとに交互に登壇していただくかたちで運営しています。

講師をお願いするにあたり、私がひとつだけこだわっていることがあります。

それは、テーマを話す講師が実際にそのテーマに関連していることを業務、実務として行っていることです。現在のトレンドをお聞きできることはもちろん、より深い内容をお話いただける、さらに質疑応答が現場に即したものであるため、「明日から使える」学びが深まると考えているからです。

講師が研究会でお話いただく時間は1時間と短いですが、参加された方がそのあとの交流会で講師から業界や実務の裏話的なことをお聞きすることもあり、学びが深かったという声をいただくこともあり、大変嬉しく思っています。

今後の予定としては、9月13日に会員の大草さまより、「保険のプロが語るリスクマネジメント、節税、BCP」、また、12月16日には、年に1回の土曜日開催を行いますので、普段平日にお越しいただきにくい方々にも是非ご参加いただければと思います。(賀長 哲也)

日本政策金融公庫様との共催セミナーを実施

平成29年5月12日（金）に、日本政策金融公庫京都支店様と当診断協会との共催セミナーが実施されました（テーマ「京都の会社を強くする！経営力向上セミナー」）。公庫様とは従来よりソフトボール大会や懇親会の実施などで交流を深めて来ましたが、セミナーの共催は今回が初めてとなります。

経営力向上計画は、中小企業等経営力強化法に基づき、中小企業が生産性向上を目的とした計画を作り、承認されると固定資産税の軽減や金融支援等が受けられます。ただ、本計画を作成する中小企業はまだまだ少なく、本セミナーでは制度の理解を深める説明や、実際の取り組み方などについて話がありました。講師は、当協会の会員3名が務めそれぞれ以下のテーマで講義を行いました。

- ・第1部 中小企業等経営力強化法に基づく経営力向上計画について 岡原慶高会員
- ・第2部 IT活用による経営力向上法（IT導入補助金の活用） 坂田岳史会員

- ・第3部 業務改善による経営力向上法 多田知史会員
- ・第4部 日本政策金融公庫国民生活事業の金融支援について

当日は、中小企業等の経営者の方などが30名以上参加され、熱心に講義を聞かれていま



ました。また、セミナー後はそれぞれの講義テーマについて個別相談も開催され、経営力向上の取組について各講師がアドバイスを行いました。

少子化が進む中、中小企業や小規模事業者は、業務改善やIT活用により生産性を向上させ付加価値の向上や労働時間短縮が必要になります。本共催セミナーは、そのような活動の一助になったと考えます。(坂田 岳史)

第5回通常総会開催

一般社団法人京都府中小企業診断協会の第5回通常総会が、平成29年5月27日、新都ホテル桂の間に於いて、藤井明登常任理事の司会により開催されました。この通常総会に先立って、協同組合京都府中小企業診断士会の第18回通常総会も同時開催されました。

総会では山脇代表理事が議長を務め、まず第1号議案の平成28年度事業報告と第2号議案の収支決算書が付議されました。事業報告では理事会、総務関連、研修関連等の事業の内容や、近畿ブロック会議への参加等の活動が報告されました。これら積極的な活動に伴い、予算を大きく上回る収支決算内容が報告されました。

続いて、第3号議案の平成29年度事業計画では、「変化」、「挑戦」、「貢献」を通して診断士の認知度と社会的地位の向上等を目指すこと、引き続き協同組合京都府中小企業診断士会との一



本化についての検討等が報告され、同時付託とされた第4号議案の平成29年度収支予算が説明されました。いずれの議案も原案どおり、全会一致で可決承認されました。

また中小企業診断協会に長年に亘り貢献された功績を称える本部協会会長表彰を今井俊和氏、杉村麻記子氏の両名が受賞され、表彰状と記念品が手渡されました。

総会終了後17時30分からは、懇親会が開催され、多くのご来賓の方とともに和やかな歓談、交流が行われました。京都商工会議所 中小企業経営支援センター 副所長の福西 毅様から乾杯のご挨拶をいただき、その他のご来賓の方々からも今後の我々協会に対する期待を込めた温かいお言葉を頂戴しました。また、恒例となった新入会員の紹介などが行われ、懇親会は盛況のうちに終了しました。(岡原 慶高)



支援機関の診断士たち⑤



牧田 篤男
(まきた とくお)

京都商工会議所 勤務
(産業振興部京都創生担当兼経営支援員)

箕面商工会議所の秋田英幸専務理事からご紹介をいただいた牧田篤男です。中小企業診断士は平成20年春に登録し9年目を迎えました。前職の中小機構近畿では、主にセミナーや中小企業大学校(関西校)研修の企画運営、食の商談会担当でした。3年度までの雇用契約でしたが、国の施策を間近に見つつ、近畿の中小企業経営者や各種専門家の方々から教わったことは視野を広める良い機会となりました。

京都商工会議所では、「価値創造都市・京都」を実現するために、「知恵産業のまち・京都」を推進し、地域の特性や企業独自の強みを活かした「知恵ビジネス」への支援を展開しています。3月まで所属していた知恵産業推進室では、知恵ビジネスプランコンテストや知恵ビジ

ネス塾、「知恵の経営」支援等において診断協会の皆様に多大なお力添えをいただきました。お陰様で、支援先企業の経営革新や経営改善につながり大変感謝を致しております。

4月からは産業振興部に異動となり、海外販路開拓支援(京もの海外進出支援)や京商クリエイティブ産業モデル企業支援等の事業を中心とする仕事に従事しています。京もの海外進出支援事業では、京都市と共同で、海外展開を目指す京都市内の中小企業に対し、主に欧州市場のニーズにマッチした新商品や素材の企画・開発、展示商談会等への出展、そのアフターフォローに至るまでの一貫したサポートを行い、海外販路開拓を実現する支援を行っています。他方、経営支援員として私の活動方針は「中小企業者さんの背中を押す自立のお手伝い」です。「会議所なら何でもして助けてくれる」ではなく、中小企業の皆様が「『自らを抛り所に』活用する場が会議所にある」と思っていていただき、必要とされ続けられるよう努めていきます。今回は公益財団法人京都産業21の大玉貴之さん、お願いします!

はんなり診断士



前田 剛
(まえだ つよし)

㈱KTMコンサルティング

皆さま、はじめまして。今年度、入会致しました前田剛です。これまでの経歴を紹介させていただくことで自己紹介といたします。

私は、社会人になるまで関西に縁がなく、生まれてから高校生まで、香川県で過ごし、東京で大学生になりました。大学卒業後、関西の電機メーカーに就職し、大阪で住むこととなった時から、関西に縁ができ、それから、約20年、人生の半分近くを関西で過ごすこととなりました。

最初の就職先である電機メーカーでは、今では見かけることのないブラウン管の生産技術部隊の一員となりました。ここで、ブラウン管の生産方法や条件設定、工場改善（生産性向上・歩留低減）、海外での新ライン立上げ等、ほとんど工場の中で過ごしました。同じ会社の工場

の支援とはいえ、まずは外部として現場に入り、目標達成に向けて協働で取り組むという経験をし、経営コンサルタントを目指すことになりました。海外での新ライン立上げも一段落したこともあり、コンサルタントへの転職を決意し、入社から約5年で退職しました。

その後、1年程、ニュージーランドに寄り道した後、コンサルティングファームに転職しました。それから、コンサルタントとしての経歴が始まり、製造業、工事会社、電力会社の事業再構築や効率化、組織力向上等のコンサルティングに13年間、従事しました。様々な企業を支援させて頂きましたが、幅広い知識の必要性を身にしみ、中小企業診断士の資格取得を目指し、ようやく資格取得でき、これを機に、昨年10月に独立、起業しました。

これまで、組織のなかでもがきながら、貢献しようと努力されている方に何度も出会い、一方で、そういった方々の努力を無駄にする組織にも出会いました。今後は、同じように健全に努力されている方々を「謙虚」かつ「良い加減」をモットーに、企業の大小を問わず、支援していきたいと考えております。

皆さま、どうぞ宜しくお願いいたします！



上村 賢
(うえむら さとし)

皆様こんにちは。昨年、診断士登録し、入会させていただいた上村賢と申します。京都伏見で生まれ育ち、現在も伏見に住んでいます。

診断士では少数派と思うのですが、工業高校を卒業して中小製造業で29年間、生産ラインの作業員として、管理職となってもプレイングマネージャーとして、文字通り汗と油にまみれて仕事をしておりました。また、労働組合の役員として活動していました。

私が診断士という資格を意識したのは、今から15年前、労働組合役員の立場で工場閉鎖と人員削減を経験したときです。経営の知識が無いために、工場閉鎖や人員削減が避けられないものなのか、経営者と十分な議論ができませんでした。退職していった仲間への申し訳ない気持ち

と、自分と家族の将来への不安もあり、何かしらの勉強がしたいと思ったときに診断士を知りました。

ただ当時、興味はありましたが雲の上の資格と思い挑戦する気持ちは全くありませんでした。手の届きそうな簿記から始めて、ビジネス実務法務、ビジネス会計、行政書士、フォークリフトや有機溶剤作業主任者等々、少しずつ検定や資格を取る生活を送っている中で、診断士への憧れを思い出して受験を決意、4年がかりで合格しました。

昨年秋に会社を退職し、今年の1月に開業届を提出しました。家族を抱えて無謀かとも思いましたが、一度きりの人生、チャレンジしたい気持ちが大きくなり決断しました。

今後は、製造業での経験を活かしたご支援をしたいと思っています。また、労働組合と経営者の相互理解を促進するような活動や、以前の私のようにキャリア形成に悩んでいる一般の会社員の助けになるような活動ができないかなと、漠然とではありますが考えています。

皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

プレゼンテーションスキルアップ研究会紹介

今年度の代表の中西昭人と申します。簡単にプレゼンス
キルアップ研修会の概要をご紹介します。

●目的

プレゼンにおける必要な話し方や伝え方、説明・説得能
力の向上のために、診断士同士互いに評価、フィードバック
して研鑽する

●メンバー

橋本浩司、外直樹、林勇作、伊藤友重、中西昭人

●今年度の開催日時

原則、月1回(第1火曜日)、19時15分～20時45分

●場所 診断協会事務所

●参加資格 興味、関心のある方はどなたでも

●今年度の主な内容

1) 提示テーマに沿って3分スピーチ (テーマは変更自
由、持ち時間は5分まで各自設定可能)

2) ビブリオバトル

参加者が本を持ち寄って順番に紹介、ディスカッショ
ンします。全員の発表が終わったら、どの本を一番読
みたいと思ったかを決めるものです。

3) ゲスト発表者のプレゼンを評価、フィードバック
プレゼンをもっと磨きたいという方にお越しいただき、
実際に発表していただきます。その後メンバーから
フィードバックを行います。

●当会の2つの特徴と私 中西の楽しみ方

1つめは、型にはまったプレゼンスタイルではなく、自
分の話し方を追求できる場であることです。

プレゼンで思いや考えを伝えることは決して簡単ではあ
りません。インターネットで検索をすると注意すべきポ
イントなどはすぐにわかりますが、当会は「プレゼンは
こうあるべき」というスタンスではありません。評価の
ための大きな枠組みはありますが、私の個性を活かした
プレゼンスタイルを追求できる場として楽しんでいます。
もうひとつは、メンバーからフィードバックが得られる
ということです。

プレゼンは経験を重ねるごとに自分のスタイルができて
きますが、改めて課題を明らかにしたいとき、新しい話

し方を試したいときはも
ちろん、毎回フィードバック
をもらうことができ、
プレゼンを定期的に修正
する貴重な場として活用
しています。



●当会のメンバーがどのように楽しんで活用されているかをご紹介します

- ・月1でみなさんと会って、あれこれの話ができることが
本当にありがたい
- ・診断士の皆さんと話ができることで、普段の業務と違う
視点で話ができる
- ・仲間にスピーチするといっても恥をかくのはいやなもの
だが、そういう場があればこそ、何かの時に精神的な
助けになる
- ・3分でしゃべることを定期的に続けていくと何かの助け
になる
- ・テーマがあれば普段は考えないことを考えられ視野が広
がる
- ・自分の悪いところの指摘を受けたことで、実際の講演時
に気をつけて話せた
- ・話のネタをたくさんストックできる
- ・少人数のため、小回りがきき、やりたいことが気軽に実
行できた など

京都診断協会の行事予定

- 8月6日(日) 第1回理論政策更新研修
- 10月1日(日) 第2回理論政策更新研修
- 10月1日(日) 更新研修
- 10月21日(土) 京都診断協会シンポジウム
- 10月28日(土) ソフトボール大会

編集後記

今年も早半年が過ぎました。国際情勢は大きく変化し
つつあり、極東においてもこれまでにない緊張が高まっ
ています。遠い外国での出来事は決して対岸の火事では
なく、中小企業の経営、そして、私たちの生活にも大き
な影響を与えるものです。しかし、マスメディアの報道
は限定的で、むしろインターネット経由の方が迅速かつ
正確な情報収集が行える時代になりました。新聞を読む、
テレビのニュースを見るということが「時代遅れ」とい
う時代に突入した感があります。(足立 早恵子)

京都府中小企業診断協会 会員数とその異動 (28.4.1～29.3.31)

	期 首	期中増加	期中減少	期 末
正 会 員	138人	10人	13人	135人
合 計	138人	10人	13人	135人

種 別	増 加	減 少
正会員	青木 孝之 上村 賢 奥田 謙一 河原 進吾 沢井 狩行 朴 雄二 前田 剛 松尾 憲 松尾 孝治 小計 9人	川村 浩一 河野 通知 坂本 洋 杉原 潔 玉垣 勲 塚本 紘平 野村 昌宏 大堀 誠 川上 翔二 横倉 幸司 清澤 康弘 小計 11人
	入 会	退 会
	小笠原知広 小計 1人	上野 哲生 野坂 研 小計 2人
計	10人	13人

診 断 京 都

No. 118

2017年7月発行

一般社団法人京都府中小企業診断協会

〒600-8431 京都市下京区綾小路通室町西入善長寺町
143番地 マスギビル502号室
TEL (075) 325-5731
FAX (075) 325-5675

メールアドレス info@shindan-kyoto.com

ホームページ http://www.shindan-kyoto.com/

印刷所 頼大 気 堂 TEL (075) 361-2321

FAX (075) 361-5047